

鳥取大学小児科/脳神経小児科専門研修プログラム

● 概要：

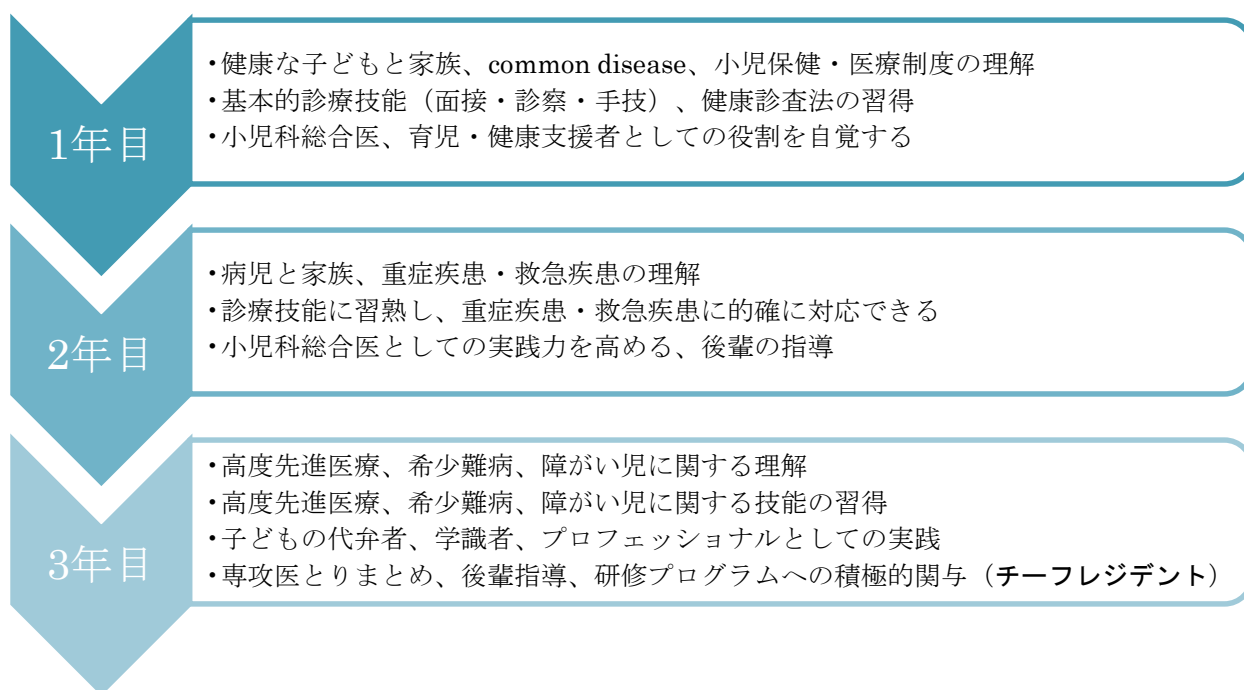
2年間の初期臨床研修を修了した後に、小児科専門医取得に向けて3年間の研修を行います。

本プログラムは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的としています。

一定の専門領域に偏ることなく、幅広い研修を行うことで、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることを目指します。

● 年次毎の専門研修計画：

年次毎の到達目標は下記の通りです。なお、詳細は研修マニュアルを参照してください。



● 専門研修連携施設：

連携施設		
鳥取県立中央病院	米子医療センター	松江赤十字病院
津山中央病院	松江市立病院	
鳥取県立厚生病院	鳥取市立病院	
	山陰労災病院	
		関連施設
		鳥取県立総合療育センター

● **研修スケジュール：**

地域医療研修は希望に沿う病院で経験するようにプログラムされています。専攻医はすべての研修施設群をローテートする必要はありません。スケジュール例は下表のとおりです。

なお、鳥取県から奨学金を貸与されていた鳥取大学医学部卒業生には、地域医療支援を目的として鳥取県内の公的医療機関での勤務が義務付けられており、研修施設ローテートや研修スケジュールについては専攻医と相談の上、プログラム統括責任者が調整を行います。

施設名	鳥取大学医学部附属病院 (基幹施設)	鳥取県立中央病院 (連携施設)	津山中央病院 (連携施設)	鳥取県立厚生病院 (連携施設)
地域	鳥取県西部	鳥取県東部	岡山県北部	鳥取県中部
研修期間	12 か月	6 か月	6 か月	12 か月
研修内容	小児科としてヒトの成長と発達を見守り援助するという心構えを確立する。 小児科学の全ての領域をくまなく経験し、小児科医として必須の知識および診療技能を習得する。	膠原病・リウマチ疾患を中心に、アレルギー疾患、先天奇形症候群、感染性疾患等を経験する。 地域の救急医療に参加する。	小児科のあらゆる領域の診療に従事し、研修を行う。 後輩の専攻医の相談に応じ、的確な指導を行う修練を積む。	地方都市の基幹病院小児科として、あらゆる急性疾患への対応や慢性疾患の診断・治療に従事する。高次医療が必要な場合、後方病院への搬送判断を遅滞なく行う。

● **専門医受験資格取得要件 等：**

- 「小児科専門医の役割」*の習得
- 経験すべき 33 症候*のうち 8 割以上 (27 症候以上) を経験
- 経験すべき 109 疾患*のうち 8 割以上 (88 症候以上) を経験
- 経験すべき 54 技能*のうち 8 割以上 (44 技能以上) を経験
- Mini-CEX による評価 (年 2 回、合計 6 回) *
- 360 度評価 (年 1 回、合計 3 回)
- 30 症例のサマリー (領域別指定疾患を含むこと)
- 講習会受講 (医療安全、医療倫理、感染防止など)
- 筆頭論文 1 編の執筆 (小児科関連論文、査読制度のある雑誌掲載)

* 詳細は研修手帳参照

● **本プログラムの特徴：**

- 専門研修期間中、小児科学の大学院に進学することも可能です。小児科臨床に従事しながら臨床研究を進める場合、その期間は専門研修として扱われます^{※1}。
- **Subspecialty** 領域の専門医資格^{※2} 取得の希望がある場合、当該領域の疾患を経験できるよう、可能な範囲で配慮します^{※3}。

^{※1} 研究内容によっては専門研修が延長になることもあります

^{※2} 小児神経専門医（日本小児神経学会）／小児循環器専門医(日本小児循環器病学会)／小児血液・がん専門医(日本小児血液がん学会)／新生児専門医(日本周産期新生児医学会)

^{※3} 基本領域専門研修中に経験した疾患は、**Subspecialty** 領域の専門医資格申請に使用できない場合があります